

人権さんだ

2月号

令和3年(2021)

No.503

コロナ禍^かの中で
今、大切なこと

《問い合わせ》
福祉共生部共生社会推進室人権推進課
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

「風邪^{かぜ}症状^{しょうじょう}なのだが、出勤^{しゅっしん}して大丈夫^{だいじょうぶ}だろうか」
「知り合^{しりあ}いの知り合^{しりあ}いが陽性^{ようせい}になったが・・・」
とある市内^{かいてい}介護^{ごうご}福祉^{ふくし}施設^{せつし}従事^{じゅうじ}者の声^{こゑ}です
施設^{せつし}利用^{りよう}者の顔^{かほ}を思^{おも}い浮^うかべ
「どこまでが良^よくて、どこまでがダメ^{だめ}なのか」
と、思^{おも}いあぐねる毎^{まい}日^{にち}
「もし自分^{じぶん}がウィルス^{ウイルス}を持^もち込^こんでしま^まったら」
そんな不安^{ふあん}な気持^{きもち}で今^{いま}日も仕^し事^じに向^{むか}います

今^{いま}回はコ^こロ^ろナ^な禍^かの現^{げん}場^ばの声^{こゑ}をお届^{とど}けし、今^{いま}大切^{たいせつ}にしなけれ^れば
な^なら^らないこ^ことにつ^ついて考^くえ^えたいと思^{おも}います。

写真 : Shige(千丈寺湖)

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

もどかしい思い

市内保育園従事者

「小学校でコロナが出たと聞きました。兄弟関係の子は通園していただけますか？」

噂を聞き付けた保護者からの問い合わせです。答えられない質問には当惑します。感染リスクのある人や集団を避けたいという心理から、不安や嫌悪感が生まれます。そのことが、差別感情や偏見に繋がってしまわないかと気がかりです。

コロナ禍の決断

「音楽発表会」の持ち方には悩みました。実施の判断は難しく、感染予防に細心の注意を払い、出席者は1家族2名までとし、入れ替え制にしました。保護者アンケートで「子どもの元気な姿を見るのができて嬉しい。ここまでの感染防止の配慮に感謝します」と、肯定的な感想をいただきました。しかし、保護者の理解は得られなかったとしても、園で感染者が出たら園外からの批判は出るだろうと思っています。

保育のあり方

保育のあり方にも課題を感じて



います。職員はマスクを着用して保育しています。子どもは保育者の表情をマスク越しにしか見ることでできません。乳児期にあつては、表情を見せて育んでいくことが大切です。今は感染から身を守るために仕方ありませんが、見たり触れ合ったりして伝わるものがあります。そう思うと、もどかしい気持ちでいっぱいになります。

感染してしまったら

「復帰の時に、職場は受け入れてくれるだろうか？」感染者への心ない言葉を見聞きすると、周囲の過敏な反応が怖い。誰もが感染の可能性がある中で、こんな気持ちになる。人ごとではなく自分のこととして、今大切にしなければならぬ「人としてのあり方」が問われていると思います。

制限の中で

市内介護福祉施設従事者

利用者のストレスが気になる。コロナ禍の中、当初禁止していた面会を一時期再開していた。時間と場所を指定し、1週間前から体調管理をしてもらい実施した。ただ、クリアボード越しでは声も聞こえずらく、半年ぶりに出会った家族に「会いたかってん！」と抱きつく人もいる。スキンシップを取りたい気持ちは分かるが、その行動を制しなければならぬ。今まで当たり前をやっていたことができなくなってきた。その辛さは職員にもあるが、一番感じているのは利用者だと思う。

互いに伝え合うこと

他の施設から利用者を受け入れたことがある。その人は、入居後あまり喋らず、食事もとらない状態が続く、心配した。本人に確認すると、自宅に帰れると思っていたが、この施設に来たことで落胆したということだった。感染拡大の中、前の施設で思うように面会ができず、家族からの十分な説明がなかったためだろう。当たり前のことがしたくてもできない



現状の中で、日々の営みは常に目の前にある。人と人が、互いによく伝え合えないことに課題を感じた。

こんな時だからこそ

できないことが多いコロナ禍の中で、もどかしさを感じる。利用者に対して「今できることを今やってあげたい。今やらなかったらできなくなる」そんな思いがある。そんな中、利用者からの「ここで過ごして良かった」という一言が、モチベーションになる。「敬老の日」のイベントでは大きな出し物をなくし、小グループに分かれて職員が記した感謝のメッセージを利用者に読んでもらった。喜んでメッセージを読む利用者の姿に、こんな時だからこそ、工夫しながらできることをし、明るい気持ちを大切にしたいと強く思った。

コロナと医療

市内在住医療従事者

2020年4月下旬、院内感

染が発生した病院に入院していた患者さんを迎えに行ってきた。コロナに感染してはいないとはいえ、院内感染を起こした病院から患者さんを迎えるため、病室を個室にし、入室するスタッフも限定し、マスクやゴーグルなどの予防具の準備と行動のマニュアルを作った。そんなこともあり、病院に行く前から緊張感があったが、到着した時からさらに緊張感が高まってきた。入り口にはアルコールが置かれていて、念入りに手指消毒をした。中に入ると3名のスタッフが待ち構えていて、体温測定と短い問診があった。感染を防ぐために決められた通路を進み地域連携室に着くと、そこにいる職員はすべてマスクとゴーグルをしていた。マスクは当然と思っていたが、ゴーグルまでしていることに驚きを感じた。

地域連携室で待っていると、少し重たい表情をした看護師が来て病棟に案内してくれた。これも通路が決められていて緊張感がさらに高まった。病室に案内されると、



担当の看護師と師長が患者さんの帰る準備を手伝い、患者さんの状態を説明してくれた。その表情も案内してくれた看護師と同じような重さを感じた。言葉をかけようと一瞬思ったが、ブレーキがかかってしまった。病院の出口の近くになって、ようやく「ニュースで100人ほど自宅待機になっていると聞いていますが、今はどうですか」と聞いた。その看護師は初対面であるにもかかわらず、「今は、それ以上です。みんな、泣きながら仕事をしています」と答えた。心の奥に、押し込んでいた思いが湧き出てしまったのであろう。

同じことを数年前の岩手県で、精神科の看護師の研究集会があった時に経験した。その研修会で、同じグループワークのメンバーになった岩手県の看護師に復興の状況を聞いた。その時に、その看護師は思わず涙を流し、未だに津波で流されて見つからない家族がいる、と

言った時のことを思い出した。

「泣きながら仕事をしている」要因の中には、人員不足や防護具不足の中、コロナの治療にあたる激務があり、感染対策をしていた病院にもかかわらず、院内感染を発生してしまったということもあるのではないかと思う。しかしそれ以上に、傷つきながらコロナ感染の最前線で闘っているにも関わらず、「子どもを預けている保育施設に心ないことを言う人がいる」といった差別的な言動を他者から受けることが、何より辛いのではないだろうか。

講座のご案内

インターネットの中の人権問題

～尼崎市インターネット差別書込みモニタリング事業から～

- 《日時》3月2日(火) 18時～19時30分
- 《講師》三津 雅俊 さん(公益社団法人 尼崎人権啓発協会)
- 《企画》三田市・三田市人権を考える会
- 《定員》150名 《申し込み締め切り》2月15日(月)
- 《参加方法》
- ・リモート(Webex) を利用しての参加になります。
- ・市ホームページの申し込みフォームからお申込みください。
- ※事前申し込み必須・参加費無料



令和2年度 人権標語・ポスター受賞作品



八景中学校1年
岡本 菜那 さん

● 悪いのは
その人ちやうよ
コロナだよ
● 三田小学校4年
田村 康仁 さん

人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談(予約)

TEL 559-5148 FAX 562-1294
《次回相談日》2月25日(木) 13時～16時

「STOP!! コロナ差別!!」



一般
田村 尚子 さん

人権
作文

今、大切なこと

長坂中学校3年 南 晴陽

新型コロナウイルスの影響で当たり前前の生活がなくなり、友達と笑い合ったり、部活をしたり、どこか遠くへ出かけたり...そういった今まで普通にあったものが一瞬でなくなりました。

そんな、色んな規制がある中で今、自分にとって一番大切にするべきことは何なのか? 私はこんな時だからこそお互いに思いやる気持ちが大切ではないかと思っています。

休校中よく耳にした言葉に「自粛警察」や「コロナいじめ」といったものがありました。自分の身を守りたいと思うことは当然だろうし、私だつてそう思います。でも間違つた守り方にならないようにするべきだと思います。たださえコロナで苦しんでいる人がいるの

に、それを間違つた正義感で追いつめていくのはおかしいことです。

一方で、「医療従事者への感謝」という言葉もよく聞きました。手紙を書いたり、建物を青く照らしたり、お弁当を作ったりと、いろんな方法で気持ちを伝えていました。大変な状況の中でも、相手思いやる気持ちが伝わってくる出来事がたくさんありました。

これらのことから私は思いやりの大切さを感じました。ニュースや新聞で見たり聞いたりしただけの私が、こんなにも心温まるのだから、してもらった人たちはもっと嬉しいと思います。思いやりの行動は、した方、してもらった方だけでなく、周りの人たちの気持ちも明るくすることができます。

しんどい時、疲れた時、もうやめたいと思う時に「ありがとう」「頑張れ」と声をかけてもらえたらそれだけで少し心が軽くなる気がします。思いやりの言葉や行動は相手を元気づけ、勇気づけることもできます。こんな時期だからこそ、相手を思いやる気持ちを持つこと、その輪を広げることができたらいいと思います。

そして、私がもう一つ大切にしたいと思ったことは、明るい気持ちを持つことです。部活の大会がなくなったり、学校行事も縮小されたりしていく中でなかなか明るい気持ちにはなれなくて、どうしても暗く後ろ向きな気持ちになってしまいました。学校が始まった今も、体育大会や文化祭などたくさんさんの事が今まで通りにいかず、はがゆい気持ちになることが何度もあります。でもその度に、周りの友達、先生方などたくさんの方が助けてくれました。クラスの仲間と協力し合うことで、前向きな気持ちになることができました。

こんな時だからこそ物事に対して明るい展望を持ち続け、前向きな気持ちで頑張ることが大切なのだと思います。今まで通りじゃないから何もできないのではなく、今までとは違うのなら、今までとは

応援メッセージ 募集!

コロナ禍の中、頑張っている人々への応援メッセージを募集します。

様式は自由、100字以内で2月末までに表紙上部《問い合わせ》先へFAXやメールで送信するか、市人権推進課窓口へお持ちください。採用させていただいたメッセージは、「人権さんだ」にて掲載の予定です。

違う方法でしてみよう。今だからできることをさがしてみようと思えば、自然と前向きな気持ちになれると思います。いろいろなできないことが多いし、暗い気持ちになることもたくさんあると思いますが、お互いに支え合い、助け合っていくことで明るい日常が生まれると思います。自分の気持ち次第で明日は良い方向にも、悪い方向にも行きます。たとえ良いことがなくても、一日が終わったときに明日も少し頑張ってみようかなと思えば、それだけでその日は良い日だったと言えるのではないのでしょうか。思いやりの気持ちと明るい気持ちを持つてそんな日を、増やしていきたいです。